

令和8年度

中期計画・事業計画書

中期計画：令和6年4月から令和12年3月

事業計画：令和8年4月から令和9年3月

学校法人 昭和学院

昭和学院短期大学

昭和学院中学校・高等学校

昭和学院秀英中学校・高等学校

昭和学院小学校

昭和学院幼稚園

中期計画の策定にあたって
令和6年4月1日～令和12年3月31日
創立90周年に向けて

現在、我が国は急速に少子高齢化が進み、2041年には18歳人口は、2023年度入試より27.1%少ない約80万人まで減少すると予想されています。一方、AIやビッグデータといった技術の急速な進歩により「Society5.0」といわれる超スマート社会が到来し、人・モノ・情報が国境を越えて行き交うグローバル化が進んでいます。このような社会的状況の中で、幼稚園から短期大学までを擁する昭和学院は、建学の精神、教育方針に基づき、適切なガバナンスを確保して総合学院としての使命を果たしていくために、各設置学校においてそれぞれの理念や教育目標等を定め、時代を先導し、持続的な発展をけん引できる人材、社会に新たな価値を創出できる人材の育成に努めてまいります。

私たち昭和学院は、学生・生徒・児童・園児の特性や多様性を前提として、学習者拠点に立ち、誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学ぶことができ、可能性を最大限に引き出し、個々の幸せはもとより社会全体の幸せが実現されるよう努力し、新時代にふさわしい教育を提供するべく、施設の充実をはじめとし、教育改革に取り組み、質の高い教育を提供してまいります。

2030年に創立90周年を迎える私たち昭和学院は、6年間の中期的な計画のもと、学生・生徒・児童・園児・保護者をはじめとする様々なステークホルダーに対し、教育、研究および社会貢献の機能を最大化し、価値の向上を目指していきます。

経営陣と教職員が中期的な計画を共有し、改革の実現に際して積極的な提案を受けるなど法人全体の取り組みを徹底します。

I. 学校法人昭和学院

中期計画

【中期計画の基本方針】

1. 建学の精神と学院運営の理念

本学院は、創立者伊藤友作先生が定めた「明敏謙讓」を建学の精神として、「明朗にして健康で、自主性に富み、謙虚で個性豊かな人間」を育てます。

明敏とは、活力をもって未来を拓くこと

謙讓とは、英知をもって社会に生きること

建学の精神のもと本学院は、私学の特性を最大限に活かしながら、個性を伸ばし、豊かな人間性を育むこと・可能性を大きく拓くこと・より高い自己を目指す向学心の育成に努めます。

2. 財政

堅実な経営基盤を維持・向上させるために必要な財務戦略を立案・実行します。

「経営・財政の安定なくして、教育研究の充実・発展なし」を基本理念として、中期事業計画の実現を財政的に担保すると共に、部門独立採算を厳格化し、安定的財産基盤を確立します。

- (1) 入学定員の確保を前提とした学校（部門）別独立採算を厳格化し、法人全体として堅固な財政基盤を保持します。学校（部門）ごとに単年度収支を均衡させ、将来計画を実現するための資金を確保します。
- (2) 補助金、寄付金等外部資金の有効利用に努めます。
- (3) 目的を明確にした戦略的広報活動を強化します。（入学定員の確保と寄付金の募集に繋がります。）
- (4) 支出の中で多くを占める人件費を適正値にコントロールする（学校ごとに生徒数に見合った教員数とし、中期計画の中で実行していく）
ことが本法人の課題であり、学校（部門）別の人件費比率を50%未満に改善することが目標です。教育の質を確保しながらの取り組みのため、段階的に改善させることとし、令和11年度には50%未満と定めます。
人件費比率 人件費÷経常収入（概ね50%台）
人件費依存率 人件費÷学生生徒等納付金（100%以下）
- (5) 支出に対する費用対効果の検証、三社見積もりの徹底、値引き交渉の実施、業務委託費等の支出の見直しを行います。
- (6) 寄付金の募集を行い、学校（部門）別に定めた目的のために利用します。
- (7) 目標未達成学校（部門）については、中期計画の見直しによる自助努力と法人による必要な支援措置を講じます。

3. 人事

学院の発展や中期計画達成のため、教職員がやりがいを持ちながら、能力を生かし活躍できる人事政策を推進します。

- (1) 学校（部門）ごとに財政収支が均衡することを前提に適正な（授業時間数に見合った）人員を配置します。
- (2) 永続的発展のため、有能な人材を適切な年代構成に配慮し、採用・育成するシステムを構築します。
- (3) 教員研修を充実させ、授業力アップに努めます。
- (4) 勤務時間に関する意識改革と時間外勤務の抑制に努めます。

4. 施設設備

教育研究の維持向上と学生・生徒・児童・園児の安全を確保するため、計画的に施設整備を整備し、環境整備を図ります。

- (1) 学校法人の施設に要する経費は、人件費と並び膨大なものとなるため、計画的に整備、保守、修繕を行うものとします。
- (2) 施設計画については、学校（部門）別に計画している事業を法人で調整し、各年度の予算編成の中で実施する事業を決定するものとします。
- (3) 実施予定の事業は、優先順位を決め、学校（部門）共同で実施することとし、最大の効果と効率化、コストダウンを図ります。
- (4) 基本金組入れ額を確保し、幕張キャンパスおよび短期大学の改築・大規模改修に備えます。

5. ガバナンスの強化

本学院の教育目標および研究目的は多岐にわたっており、それぞれに異なるステークホルダーが存在することを踏まえた上で、法人運営・教育研究活動の充実・高度化と透明性を確保します。

- (1) 自己点検や改善・改革に関わる情報および保有する教育・研究をはじめとする各種情報を刊行物やホームページ等を通じて積極的に公開することにより、学院内外の関係者および社会に対する説明責任を果たします。
- (2) すべての教育・研究活動、業務に関し、法令・寄附行為・学則ならびに諸規定を順守するよう学院全体で取り組みます。

6. 学校校舎等のさらなる有効活用

学校校舎等を更に有効活用し、教育活動の充実強化、学校の認知度の向上、入試広報活動の推進等に役立てます。具体例としては、塾、保護者への学校説明会、模擬試験、預かり保育等を各校で工夫し適正な対価を求めます。必要な人員配置は、学校全体で検討します。

事業計画

1. 財政健全化への取り組み

インフレや円安の影響で物価が上昇しています。そこで学院としては、以下の対応をします。

- ・学校経費の支出と保護者負担を明確化します。
- ・経営改善計画の遂行を推進します。
- ・支出の見直しを行い、三社見積もりの徹底、値引き交渉の実施等により経費削減に努めます。
- ・補助金、寄付金の積極的利用に努めます。
- ・ICT化を促進し、経費・物・時間の削減に努めます。
- ・節水・節電の徹底、LED化を推進し、光熱水費の削減に努めます。

2. 時間外勤務削減への取り組み

- ・業務の見直し、改善を行います。
- ・1年間の変形労働制を維持し、労働時間の柔軟性を保ちます。
- ・仕事と育児・介護の両立が可能となるよう法令に対応した柔軟な働き方の実現に努めます。

3. 昭和学院のブランド力向上

少子化や価値観の多様化が進む中、本学院が選ばれる教育機関であり続けるため、以下の対応をします。

- ・学校ごとの尖ったブランド力を策定し、努力します。
- ・新しい時代に適した戦略的広報活動を充実させ、他法人（他校）との差別化を図ります。
- ・ホームページにて、情報発信に努めます。

4. ガバナンス強化とコンプライアンスの遵守

学院の信頼を守り、長期的な成長を支える重要な要素です。適切な管理体制を整備し、職員が高い倫理観を持つことに努めます。

5. 秀英小学校・幼稚園の新設

建築工事が開始され、令和10年4月開校に向けて以下の対応をします。

- (1) 児童・園児との交流活動

共に活動することを通し、お互いに思いやりや心を育むことに努めます。

(2) 教職員の交流

一貫教育として小学校・幼稚園の9年間という長期にわたりお互いに充実を図ることに努めます。

6. 学校校舎等のさらなる有効活用

学校校舎等を更に有効活用し、教育活動の充実強化、学校の認知度の向上、入試広報活動の推進等に役立てます。具体例としては、塾、保護者への学校説明会、模擬試験、預かり保育等を各校で工夫し適正な対価を求めます。必要な人員配置は、学校全体で検討します。

Ⅱ. 昭和学院短期大学

中期計画

【中期計画策定の目的】

少子高齢化、情報化、グローバル化が進展する時代にあつて、明敏謙讓の建学の精神の下、常に社会の要請に則した新しい教育を心がけ、真に社会に貢献できるスペシャリストを育成する。

また、SDGsの達成に向けた教育・研究を推進するとともに、市川市との包括連携協定や大学コンソーシアム市川の協定に基づき、地域社会の課題解決に向けた取組を行う。

【基本方針】

1. 学生ひとり一人を大切に時代の要請に則した教育
2. 国家資格をはじめ社会で役立つ資格の取得
3. 就職率100%と専門性を生かしたスペシャリストとしての活躍
4. 地域に密着した社会貢献

【計画概要】

1. Society 5.0に対応した質の高い教育の実現
2. 学生募集の強化
3. 就職支援とキャリア教育の推進
4. 地域社会への貢献

【目標概要】

Society5.0に向けた教育の質の向上を担保するために、教育設備の更なるICT化や、図書館、教務、入試、就職支援システムの高度情報化等と取り組む。また、施設・設備を更新して、学生、教職員の安全を担保する。

高大連携、企業とのコラボレーション、アクティブラーニング等を通して、社会の要請に即したカリキュラムを実施する中で、各学科・専攻の柱となっている主要な資格教育の充実と、その取得率の向上及び資格を生かした着実な就職を継続する。

市川市の現代的課題である食育・子育て支援や街づくり、文化・教養、防災等の分野で市川市との包括連携協定、及び大学コンソーシアム市川を視野に実りある地域貢献を行っていく。

また、持続可能な教育研究活動を行っていくために、学生定員の確保と収支のバランスをとる政策を実行していく。

【事業計画】

短期大学全体

事業	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
施設・設備の修理	○	○	○	○	○	○
入試、広報、就職活動の Web 対応	○	○	○	○	○	○
メディア室 LL 施設見直し 計画、準備、導入	○	○	○	○	○	○
eラーニング検討・更新	○	○	○	○	○	○
学内の DX 化推進	○	○	○	○	○	○
Society5.0 に向けた学修環境整備	○	○	○	○	○	○
数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定	○	○	○	○	○	○
私立大学等改革総合支援事業応募	○	○	○	○	○	○
市川市との包括連携協定に基づく事業	○	○	○	○	○	○
大学コンソーシアム市川連携事業	○	○	○	○	○	○
定員確保	○	○	○	○	○	○
就職率 100%の達成	○	○	○	○	○	○
卒業生キャリア支援事業実施	○	○	○	○	○	○

人間生活学科キャリア創造専攻

事業	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
ブライダルプロジェクトの実施	○	○	○	○	○	○
TOEIC500点以上の取得者を増やす	○	○	○	○	○	○
コースの学びや資格を生かした就職者を輩出する	○	○	○	○	○	○
就職率 100%の達成	○	○	○	○	○	○
産学連携教育実施	○	○	○	○	○	○
IT・ビジネス資格実施	○	○	○	○	○	○
グラフィックソフトの更新	○	○	○	○	○	○
カリキュラム検討	○	○	○	○	○	○
専攻の定員増(40名)を申請				○		
40名の定員増の実現						○
ファッション・ブライダル系資格の実施	○	○	○	○	○	○

人間生活学科こども発達専攻

事業	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
プラスα探究コースから新たな学びのスタイルへ発展	○	○	○	○	○	○

公務員保育士合格者数を定員の1割以上を目指す	○	○	○	○	○	○
認定絵本士資格の取得	○	○	○	○	○	○
保育士資格、幼稚園教諭の資格取得率90%以上を目指す	○	○	○	○	○	○
保育士・幼稚園教諭としての就職率の向上	○	○	○	○	○	○
就職率100%の達成	○	○	○	○	○	○
社会人の積極的な受入:科目等履修生制度の活用、離職者等再就職支援	○	○	○	○	○	○
保育ICT及びプログラミング教育の充実	○	○	○	○	○	○
地域子育て支援拠点事業の充実	○	○	○	○	○	○

ヘルスケア栄養学科

事業	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
卒業生中、栄養士免許取得率85%以上を達成する	○	○	○			
栄養士免許取得者中、栄養士として(栄養士免許活用を含む)の就職率90%以上を達成する	○	○	○	○	○	○
就職率100%の達成	○	○	○	○	○	○
スポーツ栄養、食品企画、医療事務分野への拡充	○	○	○	○	○	○
社会的ニーズに適応した栄養士養成カリキュラムおよび授業内容の充実	○	○	○	○	○	○
管理栄養士国家試験対策講座の充実	○	○	○	○	○	○
食育活動による地域貢献	○	○	○	○	○	○
産学連携によるアクティブラーニングの充実	○	○	○	○	○	○
科目等履修生オンライン・対面併用ハイブリット型講座の充実	○	○	○	○	○	○

【学生と財源の確保】

人間生活学科キャリア創造専攻の定員は30名、同学科こども発達専攻は60名、ヘルスケア栄養学科は80名、短期大学全体で170名の入学定員、340名の収容定員である。

令和元年度から令和5年度まで収容定員充足率は100%を超えており、短期大学全体として人件費比率は55%弱、経常収支差額は黒字を継続していた。

しかし、大学、短期大学を取り巻く環境は以前にも増して厳しい状況にあり、本学も令和6年度の入学者は子ども発達専攻およびヘルスケア栄養学科で定員割れとなっている。そこで、今後5年間の中期計画の目標は①キャリア創造専攻については内容の改革によって志願増が見込まれることから定員増を目指す。②全体として現在の短期大学の定員の確保を目指す。③こども

発達専攻はじめ各学科専攻は収益が担保されるリカレント教育等を導入する。
 ④補助金を積極的に獲得する。⑤多様な学生を受け入れるために教育内容及び教育方法に広がりをもたせる。

【人事計画】

(1) 教員組織

文部科学省が定める設置基準上必要な専任教員数は16名であるが、現状では19名の専任教員と4名の専任の助手がいる。栄養士、保育士、教員等の免許・資格養成上の基準を考慮して、令和6年度～令和11年度の専任教員数は下表を基準に、欠員ができた場合は補充する。

開講科目数が多いことから、各学科・専攻の現在の教育目的に照らして各科目を見直し、非常勤講師の削減を検討していく。

2026年度

学科・専攻名		専任教員数				設置基準で定める教員数		助手	非常勤コマ数	非常勤助手
		教授	准教授	助教	計	[イ]	[ロ]			
人間生活学科	キャリア創造専攻	3	1	0	4	4(2)	4(2)	0	22	1
	こども発達専攻	3	3	2	8	4(2)		1	14	
ヘルスケア栄養学科		4	1	2	7	4(2)		3	15	0
小計		10	5	4	19	12(6)	—	4	38	1
[ロ]						—	4(2)			
合計		10	5	4	19	12(6)	4(2)	4	38	1
構成割合(%)		53	26	21	100					

[イ]と[ロ]は短期大学設置基準第22条関係の別表第一による。

()内の数字は教授の人数を示す。

(2) 事務組織

システムが自動化されてきていることから、事務作業の効率化を進め、令和6年度～令和11年度の専任事務職員数は下表を基準に、欠員ができた場合は補充するにとどめる。

	専任	兼任	計
事務職員	4	1	5
技術職員	0	0	0
図書館専門事務職員	1	0	1
その他の職員	0	2	2
計	5	3	8

【教育の質の向上を図るサイクル】

「学修成果概念図」に示されたアセスメントポリシーに則って、質の高い教育を保証するメカニズムを構築している。PDCA サイクルに則った活動を全学的に行っている。時代とともに評価項目は変化しているので、常に見直していく。

【認証評価】

本学は、学校教育法第110条第2項に規定する基準に基づき、2019年度の自己点検・評価の結果について、2020年9月に一般財団法人大学・短期大学基準協会の認証評価を受審し、2021年3月12日付で適格と認定された。

認証評価は7年に1度受審することが義務付けられており、本学は2026年度の自己点検・評価を基に、2027年度に次の認証評価を受審する予定である。

【外部評価】

京葉瓦斯㈱、昭和学院高等学校長、県立市川昂高等学校長から本学の学修成果と教養教育について評価を受け、適切であるとの結果を得た。

令和8年度事業計画

【基本方針】

本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、「明敏謙譲」の教育理念のもと、職業または实际生活に必要な専門的学術技芸を授けるとともに、良き社会人として教養を高め、真に平和を愛好し、人類の文化及び健康福祉の向上に寄与する有為な人材を養成することを目的とする。

この目的をはたすために本学は2学科2専攻を擁し、各々の教育目的と教育目標を掲げている。

学科・専攻の教育目的

人間生活学科

人間尊重の立場から人間生活を総合的に捉えることのできる人間の育成を目的とする。

〈キャリア創造専攻〉

キャリア設計を主体的に創造することができ、ビジネス社会に対応できる人材の育成をめざす。

〈こども発達専攻〉

人間の心身の発達について理解し、他者と関わる能力を身につけた保育者の育成をめざす。

ヘルスケア栄養学科

人の健康を食と栄養の面から支援・指導できる能力を持ち、健康増進・予防医療・福祉に貢献する人材の育成を目的とする。

学科・専攻の教育目標

人間生活学科

教養科目、基礎科目、専門科目における高いレベルでバランスのとれた能

力（知識・理解・技能・表現）と、それを基盤にしてより良い人間生活を目指して諸課題を解決しようとする意欲（思考・判断・関心・意欲・態度）とを自ら育み備える。

〈キャリア創造専攻〉

1. 自身の将来に向けて目的意識を持ち、キャリア設計を主体的に創造することができる力を備える
2. 消費者の立場を理解し、多様なビジネスに対応できる知識、技術を身につける

〈こども発達専攻〉

1. 人間に関わる理論を学ぶことで、精神的、身体的に健康に生きることへの問題意識を持ち、問題解決へ向けての応用能力を身につける
2. こどもたちの個性や可能性を大切にして、人格形成に関わる適切な指導や援助のできる保育力および人の気持ちへの受容・共感・支持の態度を身につける

ヘルスケア栄養学科

1. 豊かな人間性を養い、健康増進・医療・福祉に貢献しようとする姿勢を身につける
2. 専門科目の講義や実験・実習・演習を通して、人の健康を食と栄養の面から支えるために必要な高度な専門的知識・技能を身につける

本学は建学の精神に基づき、以下の通り学科・専攻ごとにディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを定めている。

①ディプロマポリシー（学位授与の方針）

人間生活学科

教養科目、基礎科目、専門科目における高いレベルでバランスの取れた能力と、それを基盤にしてより良い人間生活を目指して諸課題を解決しようとする意欲とを自ら育み備えている。

〈キャリア創造専攻〉

1. 自らのキャリアを設計し、時代の変化に即応できる力を備えている（社会人基礎スキル、思考力）
2. 消費者の立場を理解し、多様なビジネスに対応できる知識、技術を身につけている（専門知識・技術、コミュニケーション力、実践力、向上心・責任感）

【学修成果】

評価指標	到達目標
社会人基礎スキル	生活者・社会人としてグローバル社会の中でも通用する教養やマナーを身につけている
専門的知識・技術	生活を科学的に観察し理解することができ、目指すビジネス社会に対応した知識。技術を身につけている
思考力	専門的知識・技術を活用して、問題解決のためのプロセスについて筋道を立てて考え、表現できる
コミュニケーション力	グループ学習や実験実習等において他者とかわることで他者を尊重し協力して問題解決ができる

実践力	専門的知識や技術を家庭生活や社会生活の中で活用できる
向上心・責任感	ビジネス社会の一員としての社会的役割を理解して責任ある行動をとることができる

〈こども発達専攻〉

1. 人間に関わる理論を学ぶことで、精神的、身体的に健康に生きることへの問題意識を持ち、問題解決へ向けての応用能力を身につけている（社会人基礎スキル、思考力、コミュニケーション力）
2. こどもたちの個性や可能性を大切に、人格形成に関わる適切な指導や援助のできる保育力および人の気持ちへの受容・共感・支持の態度を身につけている（専門的知識・技術、実践力、向上心・責任感）

【学修成果】

評価指標	到達目標
社会人基礎スキル	社会人としての教養・マナーを身につけ、自己理解の上で自己表現ができ、保育現場の発展に役立つことができる
専門的知識・技術	専門分野における基本的な知識・技術を身につけ、こどもたちの個性や可能性を大切にできる
思考力	人間が精神的、身体的に健康に生きることへの問題意識を持ち、知識・技術を活用して、子育てや子育ての問題解決のためのプロセスを考えることができる
コミュニケーション力	こどもの心身の発達理解を下に、子どもや保護者の気持ちを理解し、他者を尊重し、協力して問題解決ができる
実践力	保育場面において、具体的な保育の構想計画を立てることができ、知識・技術を活用して、実践できる
向上心・責任感	保育者としての役割や保育・教育理念を理解し、自分自身を高める学習や行動、責任感ある行動を実践できる

ヘルスケア栄養学科

1. 豊かな人間性を養い、健康増進・医療・福祉に貢献しようとする姿勢を身につけている（社会人基礎力、向上心・責任感）
2. 専門科目の講義や実験・実習・演習を通して、人の健康を食と栄養の面から支えるために必要な高度な専門的知識・技能を身につけている（専門的知識・技術、思考力、コミュニケーション力、実践力）

【学修成果】

評価指標	到達目標
社会人基礎スキル	食・栄養分野に携わる社会人として必要な教養・マナーが身についている
専門的知識・技術	食・栄養分野における専門的な知識・技術が身についている
思考力	筋道を立てて物事を考え表現できることや知識を活用して問題解決に向けて計画・準備できる
コミュニケーション力	問題解決に向けて協力して行動できる
実践力	食・栄養分野における専門知識・技術を活用し、実践できる
向上心・責任感	食・栄養分野の専門家としての社会的役割を理解し、責任ある行動が身についている

②カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

人間生活学科

人間生活学科の教育課程として、豊かな人間性と幅広い教養を身につけるための「教養科目」、生活者として必要な本学科の基幹となる学問領域としての「基礎科目」、専攻の教育目的を達成するための「専門科目」を配し、より良い生活の実現を目指す総合力を養う。

〈キャリア創造専攻〉

1. 自己にあった学びを体系的にできるよう配慮し、ビジネスに必要な専門知識を身につけさせる
 2. アクティブラーニングによる学びを取り入れ、社会で求められるコミュニケーション力や問題解決力に加えて、クリエイティブな力を身につけさせる
- #### 〈こども発達専攻〉

1. 精神の発達、身体の発達に応じた科目をバランスよく配置して、個人の発達とともにその発達を支える社会との関連を学び、人間を総合的に観る能力を身につけさせる
2. 理論、演習、実習を1年次より有機的に配置して、2年間の学びの中で、実体験を生かして理解を深め、専門職への意識の向上を図る

ヘルスケア栄養学科

1. 「専門基礎科目(必修)」で基礎的学力を養い、「専門科目(必修)」から「専門科目(選択)」へと、段階を追った系統的な学習を通じて高度な専門的知識を修得させる
2. 「実験・実習・演習」に重点を置いた実践的な学びを通して、専門的スキルを身につけさせる
3. 豊かな人間性を養うための「教養科目」と高度な知識や資格を取得するための「専門科目」を置き、丁寧な個別指導を行い、個々の学生に適した学びを可能にしている

学修成果の評価についてはルーブリック評価法を取り入れて行う。履修科目の単位認定に当たっては科目の性質に応じて筆記試験、レポート試験、日常点などを適切に組み合わせて評価し、その方法と配点は開講前にシラバスに明示する。

③アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

人間生活学科

人間尊重の精神をもち、自らの生活の向上のために前向きに努力できる人、またはその意思のある人。

〈キャリア創造専攻〉

1. 自身の将来に向けて目的意識を持ち、キャリアを構築する意思のある人。

2. ビジネス・ファッション・ブライダル・フード・観光・エアライン・医療・教育・DXなどに興味・関心のある人

高校での学びについて

高等学校卒業程度の基礎学力（英語、数学、国語等）を身につけ、興味のあることに一生懸命に取り組んだことのある人

〈こども発達専攻〉

1. こどもを含めたあらゆる人間関係に意欲を持って、柔軟に対応できる人。
2. 人間生活を理解できる保育者となるための基本的資質（素直さ・明るさ・倫理観等）を持ち、弱者に寄り添うことのできる人

高校での学びについて

高等学校卒業程度の基礎学力（英語、数学、国語等）に加えて、社会生活を営むための基本的能力や自己管理能力を身につけている人

ヘルスケア栄養学科

1. 人の健康を食と栄養の面から支えるという目標を持ち、目標に向け努力を惜しまない人
2. 健康増進・医療・福祉に貢献できる、人間性豊かな人

高校での学びについて

高等学校卒業程度の基礎学力を身につけ、食や栄養の分野に関わる学びに興味がある人

【実施計画】

建学の精神に則り、令和8年度は下記の事業を実施する。

1. Society 5.0 に向けた教育の質と学生生活環境の向上
 - ①多様な学生の受入れを視野に学科・専攻の学びを広げる。
 - ②キャリア創造専攻の新たな方向性を検討する。
 - ③多様な学生の得意を伸ばし、質の高い Only One 教育を目指す。
こども発達専攻並びにヘルスケア栄養学科の保育士、幼稚園教諭、栄養士の資格の上に新たな教育を推進する。
 - ④私立大学等改革総合支援事業タイプ1とタイプ3（プラットフォーム型）に応募する。
 - ⑤ICT教育の推進—社会のデジタル化に対応して
学内 LAN が整備され、情報の大容量化や多くの場所で情報機器を使用することによって生じるトラフィック量の増大に対応可能となった。また通信の安定性が担保された。教育コンテンツ及び教育方法を進化させ（動画、同時配信ライブ、双方向等）、デジタル社会に即戦力となり得る教育を実践する。
 - ⑥産学連携教育の推進
企業との連携による共同開発事業等を通して実践力のある人材を育成する。
ANA、ソニー、大手スーパー等との連携教育を推進する。
2. 学生募集の強化

- ①紙を媒体とする広報から電子媒体に切り替えていく。
 - ・Web 出願、双方向型 Web オープンキャンパスを充実する。
 - ・短期大学のホームページに加えて、各学科・専攻のホームページを充実する。
- ②多様な入試を行う。
- ③高大連携事業を推進する。
- ④各学科専攻の定員を確保する。

3. 就職支援とキャリア教育の推進

①資格教育の充実

- ・キャリア創造専攻では IT・ビジネス資格を導入する。
- ・こども発達専攻の保育士、幼稚園教諭免許状の取得率 90%以上を目指す。
- ・保育士または幼稚園教諭等の保育者としての就職率の向上を目指す。
- ・ヘルスケア栄養学科の栄養士免許取得率 85%以上を目指す。
- ・ヘルスケア栄養学科の栄養士として（栄養士免許活用を含む）の就職率 90%以上を目指す。

②公務員対策講座、eラーニングの実施、Web 就職活動への対応

- ・公務員保育士の合格率を定員の 1 割以上を目指す。

③魅力ある就職先の開拓と就職率 100%の達成

④卒業生のフォローアップ

4. 地域社会への貢献

①市川市との包括連携協定事業の実施

②子育て支援センターの継続

③大学コンソーシアム市川の推進

④離職者等再就職訓練事業に積極的に参加する。

Ⅲ. 昭和学院中学校・高等学校

中期計画

1. 中期計画策定の目的

2020年に創立80周年を迎えた本校は、この間多くの有為な人材を世に送り出し、伝統校としての輝かしい実績を築いてきた。この昭和学院の伝統と実績を基盤として、中高一貫教育校としての指導体制をより強固にしていく必要がある。

そこで、まず、生徒・保護者・国民の高い期待に応えるため産官学等外部機関と連携し、さらなる進学校を目指す学校として、授業力の向上を図るなど質の高い教育活動を展開し、生徒一人ひとりの学力向上、進路希望実現を図っていくことを目指す。

また、生徒の進路の保障とともに、これからますます先行き不透明で不確実な世の中になるであろう未来を生き抜いていくために必要な資質・能力の育成を重視する。生徒自身が課題を発見し、自ら課題解決に取り組んでいくような主体的な学びを実現し、たくましく学びに向かう姿勢を育ていけるよう計画的に教育活動に取り組んでいく。

2. 基本方針「どのような学校づくりをしていくか」

- (1) 将来、国際的視野を持ち、様々な分野でリーダーとして活躍するために必要な深い教養を身に付けさせるとともに、建学の精神「明敏謙譲」の態度を育成する学校
- (2) 中高一貫教育校として、教育活動の一層の改善充実を図るため、本校の教育課題を明確にして教職員の共通理解を図り、改善のための具体的方策を積極的に実践していく学校
- (3) 高いレベルの文武両道を目指す進学校として、生徒・保護者・国民の期待に応える魅力ある教育活動を実践するとともに、中学から高校への円滑な接続を図り、計画的・組織的・継続的な学習指導・進路指導を行い、生徒の進路希望実現を支援する学校
- (4) 育成したい生徒像
 - ① 最後まであきらめず自ら考え、自ら学び、自ら行動できる生徒
 - ② 高い志を持ち、学習やスポーツ、文化活動に励む「文武両道」を目指す生徒
 - ③ 自らを律することができ、人を思いやることのできる人間性豊かな生徒

3. 計画概要

(1) 令和2年度から5つのコース制を実施

学校全体で一体感を持ち円滑に実施するとともに、社会の変化や大学受験システムの変化に対応しつつ生徒の進路希望を効率よく実現できるような制度となるようにPDCAサイクルに基づき随時更新していく。

(2) 組織的な進路指導

外部教育機関（大学・産業界など）を有効に活用し、中学校、高校の6年間を見通した進学指

導体制の確立とその検証を行う。

進路指導部主導で、学年や教科と連携し、定期考査、外部模試などの結果を調査分析し、生徒・教員研修へのフィードバックを図りながら授業・カリキュラム改善につなげるなど組織的、継続的指導を行う。さらに、ICT機器を活用して、進学に関する情報提供や生徒面談・保護者面談等を実施し、きめ細かな進学指導を実施する。

(3) コースの特性を生かした進学実績の向上

各コースの目標や特長を生かしながら一層の進学実績の向上を図る。特にTAコースやAAコースでは、きめ細かな補習・講習の実施などにより、難関国立大学を含む国公立大学や難関私立大学に現役で合格する学力を身に付けられるように、進学指導体制を強化する。

また、外部教育機関(大学・産業界など)を有効に活用した校内研修の充実や外部研修への積極的な参加などを通して授業方法の改善や教材研究等に取り組み、授業力を高めていく。

(4) 特別活動の充実・発展

学級活動・生徒会活動・学校行事などの活動を通して中学と高校との一体化を図るとともに、生徒会・委員会活動の活性化により生徒の自主性・社会性を培う。また、学習との両立を図らせ、知・徳・体の調和のとれた生徒やリーダーシップを発揮できる生徒を育成する。

(5) グローバル化・国際化への取組

- ・R2年2月に第1回目の中3「オーストラリア語学研修(全員)」を実施したのち、新型コロナウイルス感染拡大の為R3年R4年の中止を経て、R5年2月から毎年実施。R7年度2月で5回目の実施となった。
- ・高2の「IAコース海外研修プログラム(ボストン)」もR4年11月より毎年実施。R8年度もボストンで実施予定。
- ・R4年の夏休みには高校(希望者)のロンドン海外研修と中学(希望者)のロサンゼルス海外研修を実施、R5年以降の夏休みには、中学(希望者)のカナダ海外研修、高校(希望者)のロンドン海外研修を毎年実施。R8年度も継続して実施予定。
- ・その他、海外の学校との「短期留学制度」や「交換留学制度」の有効活用、「姉妹校」の締結など、さらなるグローバル化・国際化の進展を図る。

※ 令和7年度末現在の進学提携済の海外大学

University of Wollongong Malaysia(ウーロンゴン大学) 【3人合格】

Sunway University(サンウェイ大学)

Monash University(モナッシュ大学)

HELP University(ヘルプ大学) 【1人合格】

Swinburne University of Technology(スウィンバーン工科大学)

Asia Pacific University of Technology & Innovation(アジアパシフィック大学)

INTI International University & College(インティ大学)

Taylor's University(テイラーズ大学)

University of Nottingham(ノッティンガム大学) 【1人合格】

(6) 未来を生き抜く資質・能力の育成

各教科の学習と同様に探究活動を重視する。そこでは、生徒自らの興味・関心や各教科で学んだ学習内容をきっかけとして自分の課題意識を自覚させ、課題を追究し、課題解決に取り組ませていく。この課題解決までの過程で、課題意識の深まりを自覚したり、解決方法を真剣に検討したり、自分の考えを振り返ったりすることを具体的に体験することを通して、あきらめずに最後まで主体的に学びに取り組めるような資質・能力を育成する。

また、R7年度より修学旅行も探究活動の場と位置づけ、生徒主体で内容を企画立案。SAコースは種子島・屋久島で、TAコース、AAコース、GAコースは沖縄で、生徒個々の探究テーマに従ってプログラムを体験した。R8年度も既に計画を進めており、TAコースは北海道、SAコースは種子島・屋久島、そしてAAコース、GAコースは九州と中国四国の2つの行先に分かれて探究活動を行う。

(7) 広報活動の推進

入学選抜でのレベルの高い層の生徒の獲得を目指すとともに、年間を通しての積極的な広報活動を推進する。

4. 目標概要

(1) 教員の授業力向上

- ①さらなる学力向上と進学実績の向上を目指す。
- ②「校内・授業改善公開授業」を量的・質的に充実する。(授業研究の重視)
 - ・学力向上を目的とした教員の各種研修を実施する。
 - ・相互に授業を参観し、研究協議をする。
 - ・若手教師全員が授業を公開し、他の教員よりアドバイスを受ける。
 - ・ベテラン教員も授業を公開し、授業設計の意図や工夫を説明する。
 - ・近隣の学校とコラボした「授業公開」を行ったり、他校の授業を視察する。

(2) 5つのコース制による進学実績及び部活動の実績向上に係る検証

※5つのコース制導入7年目(令和8年度)より、コース内容の見直し

視点1 ☆国公立大学合格者の割合の向上実現

視点2 ☆難関私立大学合格者の割合の向上実現

視点3 ☆英検合格者数の増加…中2で準2級合格、高3で準1級合格を目指す

視点4 ☆部活動の全国大会出場数の増加及び全国制覇

(3) 教員が授業研究や進路指導に集中できるような校務分掌の見直し・精選

☆令和7年度、8年度、9年度の3年計画で校務分掌改革の具現化

5. 人事計画

(1) 現状

令和8年度		校長	副校長	教頭	国語	社会	数学	理科	英語	ネイティブ	保体	芸術	技家	家庭科助手	情報	養護	実験助手	司書	計	
中	専任常勤	1	2	2	7	6	5	5	7	3	4	2	4	1		1			46	
	非常勤				2		1	2	3		3	2				1		1	14	
高	専任常勤				10	10	9	8	13	4	9	1	1		2	1	1	1	1	74
	非常勤				4	4	4	3	2		1	1					3	1	1	24
計		1	2	2	23	20	19	18	25	7	17	6	5	1	2	3	4	3	158	

※ R8年度末定年退職なし

※ 育休取得3人 (R8.4~4月末、R8.4~6、R8.9~R9.3)

※ 産休・育休3人 (R8.4~、R8.5~、R8.8~)

※ 休職1人 (R8.4~R9.3)

- ・ここ数年、定年退職者はもとより依願退職者もあり、その補充については、各教科とも指導力を大幅に減退させぬよう、常勤・専任と非常勤をバランス良く採用していく必要がある。
- ・毎年度、学則定員を欠くことのないように入学者を確保する必要があるが、合格者数から入学者数を見積もる困難さから、年度により学級数の増減が発生している。このため、学則定員を堅持することを念頭に置いた一定程度の教員数を維持しておく必要がある。
- ・また、若手教員の増加に伴い、産休育休や育児短時間勤務による教科における持ち時数の大幅な増加がみられるようになり、数教科で非常勤講師の任用をお願いしている現状がある。

(2) 令和7年度末以降の人事計画

- ・教科における持ち時間数の精査を行い適切な時数管理を行うと共に、退職者、産休・育休取得者、病気休暇取得者等の出現に応じて法人との連携を図りながら人員の補充に取り組む。ただ、近年教員不足の影響でなかなか教員を採用することが難しい。特に都内の私立学校と競合すると給与を理由に辞退されてしまう。
- ・上記の人員の補充にあたっては、生徒が生き生きと学ぶことのできる学習環境の整備に努めるとともに、個性・感性豊かで、能力・適性に優れた生徒たちを、一人ひとりが違った光を放たれるよう丁寧できめ細かな指導のできる教員の獲得に努める。
- ・令和6年度に学則を変更し、それまで144名だった昭和学院中学校の入学定員を210名とした。ただし、R7年度からの3年間を移行期間として入学定員を180名とし、令和10年度から210名へと増加させる。中学校の生徒数の増加に伴い、スムーズな校務の管理運営を実現させるため、令和8年度より教頭2人体制とする。

(3) 令和7年度末以降の定年退職者（65歳）

※ 令和8年度末 → 0人

※ 令和9年度末 → 2人（英語、国語（進路指導部長））

※ 令和10年度末 → 6人（校長、副校長（英語）、音楽、理科、英語2人）

※ 令和11年度末 → 4人（教頭（数学）、国語、体育、技術家庭）

※ 令和12年度末 → 4人（副校長（数学）、国語、体育、英語）

令和8年度 事業計画

～生徒の「その子らしさ」をこれまで以上に引き出し育てていける学校を目指して～

1. 事業計画

【基本方針】スクールミッション

- 将来、国際的視野を持ち、様々な分野でリーダーとして活躍するために必要な深い教養を身に付けさせるとともに、建学の精神「明敏謙讓」の態度を育成する学校
- 中高一貫教育校として、教育活動の一層の改善充実を図るため、本校の教育課題を明確にして教職員の共通理解を図り、改善のための具体的方策を積極的に実践していく学校
- 高いレベルの文武両道を目指す進学校として、生徒・保護者・県民の期待に応える魅力ある教育活動を実践するとともに、中学→高校への円滑な接続を図り、計画的・組織的・継続的な学習指導・進路指導を行い、生徒の進路希望実現を支援する学校

スクールポリシー（魅力ある教育活動の指針）

(1) グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

本校の育成したい生徒像

- ① 最後まであきらめず自ら考え、自ら学び、自ら行動できる生徒
- ② 高い志を持ち、学習やスポーツ、文化活動に励む「文武両道」を目指す生徒
- ③ 自らを律することができ、人を思いやることのできる人間性豊かな生徒

(2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

多様性の尊重が重視されるこれからの社会を見越し、令和2年度より5つのコース制を導入して教育課程を編成してきた。7年目となる今年度は、これまでの6年間のコース制の実施内容を振り返り、生徒個々に異なる特性、個性、即ち「その子らしさ」をさらに生かせる学校づくりを目指して各コースの内容に改善を加えていく。

IA（インターナショナルアカデミーコース）

：国際感覚を磨き、海外で活躍する人材を育てる。

→ネイティブと日本人教員の2人担任制。オールイングリッシュの英語授業で、ツールとしての英語の精度を伸ばす。短期留学も推奨し、英会話力を磨くとともに、コミュニケーション能力やICT活用力も育てるなど、国際人、且つオールラウンダーとしての能力を育成するための特化したカリキュラム編成を行う。

また、スピーチコンテストにも積極的に参加し、英語で表現するパフォーマンス力を育て

る。

※本校 IA コースの特長がより明確に顕在化したカリキュラムの整理

※令和 9 年度中学入学生より、中学 3 年進級時まで英検準 2 級取得を確実に目指す。

※令和 9 年度高等学校入学生より、高等学校 3 年卒業までに英検準 1 級取得を目指す。

※海外大学への進学実績の向上（令和 7 年度海外大学延合格者数 24 名）

SA（サイエンスアカデミーコース）

：「科学のロマンを追い」をコンセプトに、科学に没頭するとともに、多角的な学びと論理的に物事を見る目を養う。

→科学に興味関心を持つ生徒と、それぞれの専門分野を指導する教師が一つのテーマを設定し、生徒と教師が研究に没頭することにより濃密な研究体験を重ね、最終的にはその研究成果を学会で論文として発表することをミッションとする。これによって高められた資質・能力を科学的評価の高いレベルの大学（医学や歯学、薬学、獣医学などの医療系や理工学系）への受験チャレンジにつなげていく。

※研究活動と進学実績の関係を整理し、進路実現を推進

※雲林技科大学（台湾）への推薦入学提携…TSMC（台湾積体電路製造）支援

GA（ジェネラルアカデミーコース）

：幅広い分野をバランス良く学べる環境で未来を思い描き、自分が好きなこと、やってみたいことを見出し、探究していく。

→自分の好き・楽しいを学びにつなげていけるコース。生徒の興味・関心をもとに、探究学習や選択授業（マイゼミなど）等を実施して自分自身の将来について検討し、さらなる興味・関心の変容や深まりを促すようなカリキュラムを用意。多様な学習活動によって得られる「体験」を通じて、広い視野を獲得するなど自分の未来を思い描く力を身につける。自分の学びは、自分で決める。そして、オールラウンダーとして、「好き」なジャンルの進路選択にフレキシブルにチャレンジしていく。

※GA コースと言えば探究学習、と言えるような探究学習の体系化。R7 年度の探究フェスティバルでは、他の私立学校を招待し、各発表を相互に見聞きし合うことを具現化。R8 年度も継続し、発展させていく。

TA（トップグレードアカデミーコース）

：変動する社会のリーダーとして生きる力を磨く。

→東京大、京都大、東京科学大、一橋大の 4 強や筑波大や千葉大などの国公立大学進学を目指し、少人数制・複数担任制で一人ひとりのサポートを徹底。高い志を持つ仲間との協働学習を通じて、互いに切磋琢磨し合う中で各教科の学力を向上させるとともに、思考力・判断力・表現力を磨く。また、放課後講習、特別講座などを充実させ学力を鍛え上げるカリキュラム編成を行う。

※中学 3 年から設けられる TA コースでは、R10 年度入学生が中学 3 年に進級する令和 12 年より数学と英語は高校 1 年の内容を扱い、高校 2 年終了時点で高校の教育課程を終えられるようなカリキュラム・シラバスとしたい。そこで、令和 8 年度は体制を整える上での問

題点を洗い出し、調整にあたる。

※また、R13 年度以降、外部中学校から高校 TA コースに入学する生徒に対しては、数学と英語に関して高校 1 年時に内部進学生とは別カリキュラムで授業及び補習を行い、進度を揃えられるような体制が必要となる。令和 8 年度は実施上の問題点を洗い出し、調整する。

AA (アドバンストアカデミーコース)

：一人ひとりに必要な高度な学びをじっくり深められる

→早慶上理 ICU などの最難関私立大学、GMARCH などの難関私立大学に対応したカリキュラムで、質の高い授業を実施し、希望進路の実現をサポート。一人ひとりの課題を克服できるよう、放課後の特別講座、長期休業中に開講するハイレベルな講座などのプログラムでサポートする。部活動に励む者は、「高い志を掲げ、高いレベルの文武両道を目指す」。

※中学校 AA コースでは、R10 年度入学生より数学と英語の中学校の指導内容を中学 2 年終了時までには終わらせるカリキュラム及びシラバスとし、中学 3 年進級時より高校 1 年の数学、英語の内容に先取り学習として取り組むようにしたい。そのため、令和 8 年度は体制を整える上での問題点を洗い出し、調整にあたる。

※また、R13 年度以降に外部中学校から高校 AA コースに入学する生徒に対しては、数学と英語の学習進度が内部進学生に追いつけるように高校 1 年時に別カリキュラムで授業及び補習を行い、進度を揃えられるようにする必要がある。令和 8 年度は実施上の問題点を洗い出し、調整する。

① コース制運用上の留意点

令和 6 年度まで、SA コース以外は中学校 3 年、高等学校 2 年進級時にコース変更が可能という体制をとっていたが、令和 8 年度昭和学院高等学校入学生より、次のように高等学校でのコース変更の内容を変更する。

- 高校 2 年時（令和 9 年度）より TA は国公立大学（共通テスト 6 科受験）進学を目指す生徒、AA を難関私立大学進学を目指す生徒のコースと位置付け、コース変更をさせる。
- さらに高校 3 年進級時（令和 10 年度）にも、自身の志望する進路の変更によって TA（国立大学進学）と AA（難関私立大学進学）間でのコース変更を認め、生徒が希望する大学受験に対応できるようにする。
- 以上のような体制とすることで生徒同士が切磋琢磨する環境を充実させ、生徒自らの目的意識で学習に取り組めるようにしていく。

② 教育課程の編成・実施上の留意点

⑦ ICT の活用（ICT を活用した個別最適な学び）

クラス運営から授業まで全ての活動において ICT を最大限活用する。1 人 1 台 iPad を持ち、世界と瞬時につながる環境や生成 AI の活用を通して、行動力と挑戦力を養う。また、情報モラルについて指導し、自らを律する力を養う。

※令和 6、7 年度は文部科学省の DX ハイスクールの指定を受けて校務及び授業の改善を推進した。

④国際活動（異文化理解・交流などの国際教育）

多数のネイティブの教員と共に多言語を使うことが当たり前になる環境を通して、対話力と挑戦力を養う。選択制の海外研修、1対1で英会話ができるオンラインスピーキング学習などを通して、グローバルな視点での考動力を養う。

⑤自律した学習者の育成

家庭学習のサポートを始め、周りの雑音をシャットアウトできるキャレルデスクでの自習室、困ったときに支えてくれるチューター制度、70,000冊以上の蔵書を抱える図書館の静かな環境などを通して、自らを律して学習に向かう力を育む。

⑥探究活動（探究フェスティバル）

学びの多様性・個性の多様性を探究でまとめていく。

答えのない問いに取り組む活動を通して、学びに向かう力を養う。年間を通して系統立てて行う探究の時間をはじめ、自分の興味関心で進めるマイゼミ、実験を重視した理科の授業、そして学校行事の中でも多様な探究活動を行っていく。

⑦自治的活動（生徒会・各種委員会）

生徒たちが創造力豊かに意見を出し合う生徒主導での活動を保護者・地域・外部企業と連携しながら支援し、生徒の自主性を育てていく。

⑧部活動・同好会

部活動や同好会での活動を通して、自他を尊重し、対話を重ねながら自らを律する力を育み、困難に立ち向かう力を醸成する。

⑨特別な配慮を必要とする生徒への対応（合理的配慮を含む）

教員と生徒の関係は全ての基本であり、心の通った密な関係を通して、生徒の精神的な成長を支えていく。生徒指導・面談・相談対応など、困ったらいつでも方向性を示すとともに、全体的な指導だけでなく、1人ひとりに合った支援を行っていく。

⑩多様な評価の実施（進路実現・評価）

観点別評価の精度を高め、定期考査だけではなく、各教科や学校生活の中で資質・能力ベースによる多様な評価を実施していく。

（3）アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針）

本校の教育で目指す育てたい資質・能力並びに3年間・6年間計画する教育内容を踏まえ、入学時には次に示すような生徒を求める。そのため複数の入学試験方法を用意し、入学試験において生徒が自らの判断で選択できる入学試験としている。

- ・中学校・高等学校で修得すべき基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、本校で高度な学力を身に付けようとする生徒 → 「一般入試」 など
- ・本校で身に付ける資質・能力を発揮し、世界や地域の課題を自分の課題として、解決に向けて探究するとともに、仲間と一緒に活動しようとする生徒 → 「推薦入試」 など
- ・座学のみならず地域等と連携した探究活動等の多彩な活動に取り組むことを通して、理解力、思考力、協働力、探究力等を育もうとする生徒 → 「マイプレゼンテーション入試」 など

- ・本学院中学校入学を本命とする第1志望入試の合格者の割合を一般入試よりも意図的に増やし、その割合を継続することによって本学院への入学を希望する生徒の学力層を底上げする。既に2年継続した結果、受験者数の増加及び受験者の学力向上という効果が表れてきている。

2. 実施計画

(1) さらなる学力向上と進路実績の向上

- ① コース制導入7年目、さらなる進学実績向上を目指す。
 - ・コース制の導入元年に中学に入学した生徒がR7年度末に高校を卒業した。6年間の周期が一巡したR8年度、改めてコース制全体を見直し、各コースの出願条件やカリキュラムとシラバスのあり方を再検討する。
 - ・生徒にとって魅力ある補習・講習となるように各コースにふさわしい内容で計画し実践する。
 - ・コースごとの生徒一人ひとりの進路希望実現を最大限に支援する。
- ② 学力推移分析会（中学）・模試分析検討会・ケース会議（高校）等の効果向上を目指す。
- ③ 教員の自己研鑽を実現する各種研究会・研修会を企画し実践する。
 - ・教科を超えて相互に授業を見学することを基本とした「授業研究会・研修会」を年2回開催。
 - ・生成AIの効果的な活用に関する校内研修会の実施。
 - ・ハラスメントに関する研修会の実施。
 - ・ICTを活用しての個別最適な学びとして思考力・判断力・表現力のさらなる向上を目指す研修会等の実施。
 - ・進学指導先進校、難関大学オープンキャンパス・研修ツアー等へ教員を派遣。
 - ・新たな高大連携に係る大学の発掘に努める。
- ④ 自学自習体制の確立を目指す。
 - ・「目指せ！難関国立大合格」「目指せ！難関私立大合格」など、各コースでの生徒相互の「学びあい」「教えあい」によって切磋琢磨できるような体制を整備する。
 - ・自習室での自学自習の習慣化とチューターによる特別講座への参加を促す。
- ⑤ 探究学習の意義を理解し、充実させる。
 - ・答えのない問いに取り組む活動に協働して取り組み、個々の問題意識に基づいた多様な探究活動につなげる。
 - ・集大成の「探究フェスティバル」で、個やチームで取り組んできた探究のプロセスにおける自らの変容や探究の成果として得た納得解を自分らしくプレゼンテーションする。
- ⑥ 教員が授業研究や進路指導に集中できるように校務を精選する。
 - ・教員の校務分掌を簡素化、集中化という観点で見直し、日々の授業準備や生徒指導、進路指導にじっくりと取り組める体制を整える。

(2) 「校内・授業改善公開授業」におけるテーマの厳選と質の向上

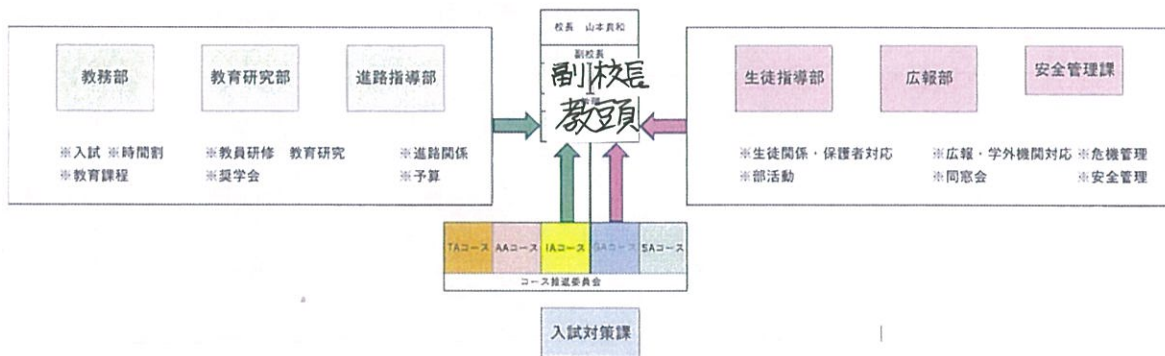
- ① 教育研究部の管轄の下、教員の授業力向上に係る各種研修を充実させ、学力向上策を柔軟で創造的な発想で検討する。

- ② 教員相互の授業参観と研究協議の常態化を図る。
- ③ 近隣の学校での出前授業に教員を派遣する。

(3) 進学実績の更なる向上という観点からこれまでのコース制の内容を総括し、コース制による指導の改善を図る

- ① 進学実績の更なる向上という観点から各コースの課題を洗い出し、改善すべきことを整理する。
- ② 学習指導要領の改訂に伴い大学入試の選抜方法にも変化が見られるようになった。特に、年内入試の総合型選抜や推薦入試の枠が顕著に増えている。そのため、総合型選抜や推薦入試に対応できる進路指導の体制をコース毎に見直していく。
- ③ 一般入試受験を前提とする TA コース、AA コースでは、難関上位大学を目指す生徒たちが互いに切磋琢磨し合える学級環境を整えるため、令和 9 年度の高校 2 年生より TA コースは国公立大学志望、AA コースは難関私立大学志望という枠組みでクラスを編成する。
- ④ コース制の改善をスムーズに行えるようにするため、これまで中学と高校で役割分担をしていた副校長・教頭を、TA、AA、IA コース担当と SA、GA コース担当の 2 つに分け、それぞれのコースにおける中学 1 年から高校 3 年までの 6 年間の教育課程全体を見直せる体制とする。(下図)

同時に、校務分掌上の 5 部、2 課の窓口となる管理職も 2 系統に分け、業務を効果的に推進できる体制を整えた。



(4) 生徒が個性を發揮できる部活動のさらなる活性化

- ① 各部において、よりよい部活動のあり方を真剣に考える。
 - ・生徒と顧問とのより好ましい信頼関係の構築に励む。→ いじめ、ハラスメント等の厳禁
- ② 真の「文武両道」を目指す。
 - ・運動部も文化部も、さらなる全国大会での上位入賞を目指す。
 - ・部活動で頑張った生徒の難関大学へのチャレンジと合格を目指す（高いレベルの文武両道の体現）。
 - ・部活動終了後、20 時まで自習室で学習し帰宅する習慣化を図る。

(5) 資質・能力の高い生徒の獲得

- ① 広報部によるきめ細やかで実効性のある募集活動を継続する。
- ② 中高ともに、本校の特色ある入学試験で、豊かな個性・感性、優れた能力・適性を持つ児童・生徒の獲得を目指す。

(6) 高校入試の質的改革に着手

- ① 優れた能力・適性を持つ入学者を確保できるように、入試対策課で以下のことを検討する。
 - ・ 高校の推薦入試における基準の改訂→新高1入学者の大幅な超過を避ける。
 - ・ 特色ある各コースの実践を確実にPRし、優秀な生徒の獲得に注力する。
 - ・ 中学校の定員増が3年目となる令和10年度から高校への新規入学者が減ることを視野に入れて改革を進める。

(7) 安心・安全な学校づくり

- ① 生徒が安心安全で快適な学校生活を送れるよう、常時、施設・設備の点検を心がける。
- ② 生徒一人ひとりに対して丁寧な観察とコミュニケーションを行うことを徹底する。
- ③ 教師と保護者が適切に連携を図り、生徒の状況を把握する。
- ④ 学校評価アンケートを実施し、保護者と生徒の声に真摯に対応していく。

令和7年度 合格状況

2026年3月26日現在

☆ 四年制大学 延合格者数 983名 (含73名) ※実数の内 () 内は過年度卒業生の延べ人数

大学名	合格者数	大学名	合格者数	大学名	合格者数	大学名	合格者数
<国公立大>							
成城大	4	環太平洋大	2	東京工科大	6		
武蔵大	14(4)	京都外国語大	1	東京工芸大	7		
獨協大	19(1)	近畿大	1	東京国際大	4		
日本女子大	3	コー・イノベーション大	1	東京情報大	7		
日本赤十字看護大	1	国際医療福祉大	8	東京女子体育大	5		
東京農業大	8	国際武道大	2	東京聖栄大	1		
東邦大	21	産業能率大	7	東京未来大	2		
北里大	3	秀明大	2	東都大	2		
順天堂大	10	淑徳大	7	東洋学園大	2		
芝浦工業大	9	城西大	3	常盤大	1		
東京電機大	9	城西国際大	6	二松学舎大	6		
星薬科大	1	湘南工科大	1	日本医科大	1		
日本大	56(3)	尚美学園大	1	日本ウェルネススポーツ大	1		
東洋大	46(3)	昭和医科大	2	日本栄養大	2		
駒澤大	22(1)	杉野服飾大	1	日本経済大	1		
専修大	21(1)	聖徳大	6	日本工業大	5		
大東文化大	3	聖路加国際大	2	日本獣医生命科学大	3		
東海大	5	洗足学園音楽大	5	日本女子体育大	5		
亜細亜大	10	仙台大	1	日本体育大	2		
帝京大	13	創価大	1	日本福祉大	1		
国士舘大	34	崇城大	1	白鷗大	1		
工学院大	4(2)	大正大	14	文化学園大	2		
東京都市大	8	高千穂大	1	文京学院大	4		
武蔵野大	30(4)	拓殖大	5	別府大	1		
神田外語大	12	玉川大	3	武蔵野美術大	1		
文教大	11	千葉経済大	1	明海大	8		
横浜薬科大	1	千葉工業大	77(17)	明星大	10		
大妻女子大	12	千葉商科大	8	目白大	2		
共立女子大	6	中央学院大	2	ヤマザキ動物看護大	2		
実践女子大	1	中京大	1	山梨学院大	3		
昭和女子大	7	帝京科学大	11	酪農学園大	2		
聖心女子大	1	帝京平成大	18	立正大	11		
植草学園大	1	桐蔭横浜大	1	流通経済大	4		
江戸川大	1	東京有明医療大	4	麗澤大	30		
桜美林大	11	東京医科大	1	和光大	1		
関西国際大	2	東京医療保健大	14	和洋女子大	9		
神奈川大	6	東京音楽大	2	SBC東京医療大	2		
神奈川工科大	11	東京家政大	1				
金沢工業大	1	東京家政学院大	3				
関西医科大	5	東京経済大	2				

☆ 海外大学・海外短期大学 延合格者数 27名

大学名	合格者数	大学名	合格者数	大学名	合格者数	大学名	合格者数
延世大	1	サセックス大	1	ウーロンゴン大	1	マサチューセッツ大ボストン校	1
ブリティッシュコロンビア大	1	ノッティンガム大	1	テンブル大	1	カルフォルニア大アーバイン校	1
シドニー大	1	ヘルプ大	1	ロードアイランド大	1	他	16

☆ 専門職大学・専門職短期大学 延合格者数 4名

大学名	合格者数	大学名	合格者数	大学名	合格者数	大学名	合格者数
東京情報デザイン専門職大	2	東京保健医療専門職大	2				

☆ 短期大学 延合格者数 10名

大学名	合格者数	大学名	合格者数	大学名	合格者数	大学名	合格者数
昭和学院短大	3	大妻女子大短大部	1	女子美術大短大部	1	東京歯科大学短大	3
日本大短大部	2						

☆ 大学校・専門学校 延合格者数 35名

学校名	合格者数	学校名	合格者数	学校名	合格者数	学校名	合格者数
防衛大学校	2	水産大学校	1	神奈川県立平塚看護大学校	1	岩手中央病院付看護専門	1
東京医療看護専門	1	東京女子医大看護専門	1	日本医科大学看護専門	1	公立中央病院付看護専門	1
						他	26

☆ 就職 内定者数 2名

東京都消防庁、埼玉県警

IV 昭和学院秀英中学校・高等学校

中期計画

1 基本方針 ～目指す学校像～

令和5年度の創立40周年を迎えた本校は千葉県下では有数の進学校として評価されるまでになった。50周年を見据え、「骨太な進学校」という新たな指針を掲げた。これは、「単なる進学校」ではなく、生徒達が担う未来と社会をリードする人材を育てる進学校として本校が進むべき方向を明らかにしたものである。「骨太な進学校」として、自律した自己と次世代に対応できる学力・教養の育成を目指す。「学びの面白さ」が学習意欲を高めて知識の蓄積を促し、さらに学びに対する主体的な姿勢を伸ばす教育を実践し、グローバル・リーダーの資質を育成する。

2 中期計画概要

学校法人昭和学院の中期計画に基づき、以下のような施策を行う。

(1) 教育実践

① 自主・自律の精神の育成

「自主・自律の精神」をもたせることなくして、真の進学校にはなり得ない。生徒に寄り添いながら、生徒を精神的に引き上げるために高い視点で指導することが必要である。生徒は、学習・学校行事・部活動・校外の研修等に主体的・積極的に取り組む中で成長していく。

また、他者を尊重する意識を育て、さまざまな意見をもった個人が集うことで互いに成長していくことを体験させ、多様性への理解を深める。

② 進路指導の充実

難関国立大学への進学実績は進学校の力量が試される数値であり、進路指導の大きな指標である。「自主・自律の精神」の上に、生徒の自己実現を支える進路指導を根本に据える。

特に、中学生は協調性・集団への帰属意識・自己肯定感などの形成をまずやっていくべきであり、早期の大学受験を意識した指導は効果的ではない。

中学段階では幅広く充実した基礎力の育成が重要である。東大や難関大学の合格者数は学校評価の重要な指標となるので学校としても数字を上げたいが、中学段階の盤石な学力と学習習慣、向上心と集団への帰属意識があれば、現在の秀英のレベルから判断して十分な結果がでる。自主・自律の姿勢をしっかりとつけさせ、社会に対する関心を育み自分の将来を考えるきっかけをつくり、同時に学力の充実をはかっていく。

高校段階の進路指導は大きく2つ挙げられる。1つは、将来の自己実現に向け、自分が興味、関心を持つ分野を見つけ、それを実現していく意識を喚起する。そのためには、適切な情報提供、卒業生や外部人材の活用、校外のコンテストや研修への参加促進などが方策となる。2つ目は、「質の高い学び」であり、自ら学ぶ生徒を育てること。そのためには、個々の教師の授業力を教科としてマネジメントし、継承・発展させ、組織的に生徒の学力向上を図っていくことが重要である。

【大学進学合格者数 実績と目標】

	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和12年度 目標
	総数	現役	総数	現役	総数	現役	
東京大学	6	(5)	6	(6)		(4)	10名以上
京都大学	3	(3)	3	(3)		(3)	5名以上
東京科学大学	12	(10)	10	(10)		(3)	15名以上
一橋大学	11	(10)	7	(6)		(5)	10名以上
難関10大学	45	(38)	42	(39)		(32)	50名以上
国立大学医学部医学科	8	(6)	9	(1)		(3)	5名以上
国公立大学	118	(99)	102	(88)			100名以上
早稲田大学・慶応大学	121	(107)	154	(142)		(92)	130名以上
東京理科大学・上智大学	165	(141)	209	(192)		(139)	
(卒業生数)		(250)		(330)		(258)	

③ 「グローバル教育」「理数教育」「秀英アカデミア」の推進

グローバル・リーダーの資質育成のため、「グローバル教育」「理数教育」「秀英アカデミア」を3つの柱として教育実践を進める。それぞれの目標は次の通りである。

グローバル教育…英語という共通言語を話し、多様性のもつ価値やエネルギーを理解するとともに、最先端の世界や学問の面白さを知る。

理数教育…文理を問わず、次世代に必要な素養を身につけること。さらに、理系志望者が6割を超える本校の特性を鑑み、教科横断型の理数探究授業を実施し、理系の学びを深める。

秀英アカデミア…探究的な学びに取り組む姿勢の育成。

- 探究講座：年間15回程度実施。外部講師による講座。
- 外部コンテストへの参加：各種オリンピック、模擬国連、各種大会等
- 秀英課題探究プロジェクト：高校生のグループでの探究を推進する企画

(2) 経営・財政の安定化

「経営・財政の安定なくして、教育研究の充実・発展なし」という学校法人の基本理念を踏まえ、安定的な財政基盤を確立することを目指す。

① 広報活動

広報活動に戦略的に取り組む。本校は千葉県内では進学校として評価されているが、都内では本校の認知度は高くはない。少子化が進む中で、都内からの受験生を増やすために、本校の魅力の発信を推進していく。塾や受験関係機関からの情報収集力を上げるとともに、効果的な広報活動をするための連携を強化していく。

② 事業・取り組みの精選

他校の取り組みを情報収集すると、費用を削減しつつ教育効果を上げる事例を知ることが多い。現在実施している取り組みも、従来やってきたからということではなく、検証と改善の余地を見だし、廃止を含め変更や新規導入を行い、より適正なものとなるよう、再構築していく。

(3) 教育環境・施設設備

- ① 生徒が安全で快適な学校生活を送り、勉学に励むことのできる環境を作るために、長中期的な施設設備・修繕計画・ICT環境の整備を行う。
- ② 2033年に創設50年となる校舎の建て替えを見据え、基本金積立を継続確保していく。

(4) 人事

- ① 開校当初に採用された教員の定年退職が令和7年度末はピークとなった。その補充について、各教科が全体としての指導力を減退させぬよう、常勤・専任と非常勤をバランス良く採用していく必要がある。育休や育児時間の取得、介護休業等に対応できる人員の確保も急務である。
- ② 生徒数は進学実績の数値に影響するため、学則定員を欠くことのないよう入学者を確保する必要がある。生徒数に応じた授業時間数で実施することが財政均衡の前提であり、そのため、1クラスの人数は35～40名とする。授業によっては、45名程度も許容する。
- ③ 民間企業の待遇改善が進む中、優秀な教員の確保は年々難しくなっている。待遇改善を進め、優秀な職員の確保のための施策をとることが喫緊の課題と言える。
- ④ 時間外勤務の抑制と休日活動の制限は働き方改革と人件費抑制の両面から必要で、進めていく。

【令和8年度教職員】

令和8年度	校長	副校長	教頭	国語	社会	数学	理科	英語	ALT	保体	芸術	技家	情報	養護	実助	司書	事務	計
中学校	専任常勤		1	6	3	6	6	7		3	1	2		1			2	38
	非常勤				1				1									2
高等学校	専任常勤	1	1	1	8	8	9	6	8		5	1		1	1		2	53
	非常勤				2	1	2	4	1	1	1	1					2	16
計	1	1	2	16	13	17	16	16	2	9	3	3	1	2	1	0	6	109

【令和7年度末退職】

定年退職8 (国1、数2、英2、美1、音1、司書1)
 専任退職2 (数1、保体1)
 常勤講師退職3 (理1、保体1、事務1)

【令和8年度以降の定年退職者】

令和8年度： 定年退職1 (理)
 令和9年度： 定年退職3 (数1、英1、保体1)
 令和10年度： 定年退職4 (国1、英1、理1、保体1)
 令和11年度： 定年退職1 (国)

令和8年度事業計画

1 スクール・ミッション

生徒の「自己実現」を支える教育を実践する。「自律した自己」「他者の尊重」の意識と「学力と教養」を身につけさせ、生徒自らが自分の進路を指向する資質を養い、次世代をリードし活躍する人材を育成する。

スクール・ポリシー 【基本方針】

アドミッション・ポリシー ～求める生徒像～

- ・本校の使命や教育方針を理解する生徒
- ・明るく健康的な生活に努め、他人の立場と意見を尊重できる生徒
- ・勉学に励み、より優れた自己を目指して新しい可能性を求められる生徒
- ・自分で主体的に考え、積極的に行動できる生徒

カリキュラム・ポリシー ～教育の方針～

本校の建学の精神である校訓「明朗謙虚・勤勉向上」のもと、将来、地域社会・日本・世界に貢献する人材育成を目指し、そのための基礎作り・能力開発を行います。その実現のために以下の教育を行います。

- 1 思考力・判断力・表現力の育成、ひいては課題解決能力の育成を図るため、中学校からの入学生には6年一貫教育のメリットを活かしたカリキュラムを、高等学校からの入学生には3年間の効率的・効果的なカリキュラムを編成し、高い学力が身につく質の高い授業を行っていきます。
- 2 次世代を担う人材の育成を念頭に、異文化を尊重する理解力、語学力、グローバルマインドセットを養うプログラムを積極的に組み入れていき、ICT・AI化への対応を促す教育を拡充していきます。
- 3 探究的な見方や考察を促し、コミュニケーション力、学びや問題解決を支えるリテラシー、プレゼンテーション力を身につけ、自らが課題を発見し、解決する意欲と能力を育みます。
- 4 一人ひとりの可能性を最大限に引き出すことを目標に、キャリア教育の視点にたって、系統的・組織的に、高い進路志望の実現に向けたきめ細かな進路指導を行います。
- 5 豊かな心の育成を目指し、明朗にして勤勉、豊かな人間性を育み、自主性を伸ばします。
学校行事や課外活動を通して、視野を拡げ、主体性と協働性、他者尊重の精神を育み、健康的な生活を送るための体力とともに、リーダーシップを育成します。
- 6 ボランティア活動や福祉講演会などを奨励し、社会貢献の精神と高い倫理観を育みます。

グラデュエーション・ポリシー ～卒業時に身につける力～

高い学力と課題解決に主体的に取り組む姿勢を身につけ、グローバルな視野と他者尊重の精神をもって、Society5.0を見据えた次世代を担う能力と豊かな人間性を備えた人物の輩出を目指します。

2 教育実践

(1) 自主・自律の精神の育成

「骨太な進学校」という方針の基で、生徒が学校行事を主体的に運営していく充実感を持ち、「学びの面白さを自ら見つける」「わからないことや外の世界への挑戦」「多様性のもつ意義の理解」という姿勢が育まれつつあることを実感する。協調性と主体性の本質を学校生活のさまざまな場面で考えさせ、葛藤と学びを繰り返しながら、グローバル・リーダーとしての資質を育てていく。

(2) 進路指導

次世代を担うリーダーの育成を目指していく。自主・自律の精神を持った生徒が高い進路目標を掲げ難関大学入学を果たすために、進路部と学年、教科が連携を図りながら、全職員一丸となって取り組んでいく。

- ・探究講座により、幅広い分野の一流の講師から講義を受け、進路選択に活かす
- ・難関大学合格プロジェクトチーム、医学部指導チームなど、チームとしての指導強化
- ・中高一貫カリキュラムによる中3からの先行履修
- ・中学段階の基礎力の養成（行き過ぎた先取りではなく、基礎力の向上を図る）
- ・高校での講習の精選化と充実
- ・卒業生による進路講演会の効果的な実施
- ・教員の指導力向上の研修の推進（予備校や大学主催の研修会参加、他校の授業見学と交流）
- ・自学自習の姿勢の育成 自立学習室（7時～18時）と図書館の自習室（～20時）の活用
- ・卒業生がチューターとして質問に応え指導する自学自習室を設置

(3) グローバル教育

① 高大連携プログラム（神田外語大学との連携授業）

- ・Academic English 講座：大学の英語ネイティブ専任講師より語学講座（年間15回大学で実施）
- ・Global Career Program：海外大学進学支援プログラム（TOEFL iBT, SAT, Essay 等）
- ・海外大学研修（カリフォルニア州立大学、スウィンバーン工科大学）

② 語学研修・海外研修

【国内研修】英語の楽しさを理解し、英語習得に対するモチベーションアップを目的とする。

中学1年（全員） TGG 研修

中学2年（全員） ブリティッシュヒルズ（福島）での2泊3日宿泊研修

中学生（希望者） POWER IN ME 3日間、外国人留学生との交流による語学研修

【海外研修】英語力養成と多様性の理解、文理融合の学問的視野の拡大を目的とする。

中学3年・高校1年・2年対象（希望者）

・カリフォルニア州立大学イーストベイ校アントレプレナーシップ研修（高校生対象）

（高大連携）シリコンバレーと連携、スタンフォード大学訪問、グーグル本社訪問

・マレーシア・スウィンバーン工科大学グローバルエクステンジプログラム

（高大連携）工科大学ならではの研修、現地の学生（大学生、高校生）との討議、交流

- ・イギリス ゲンブリッジ研修（高校生対象、2027年度より開始）
大学の先生や学生とワークショップ・科学実験・討議、オックスフォード大学見学
ホームステイ、異文化理解を中心とした語学研修
- ・オーストラリア シドニー海外研修（中学3年対象）
ホームステイ、現地の中高で授業、協働発表など、現地の生徒とともに学校生活を送る

④ 海外大学：特別推薦入学協定校

- ・マレーシア スウィンバーン工科大学サラワク校
- ・アメリカ カリフォルニア州立大学イーストベイ校
- ・アメリカ ニューヨーク州立大学オスウィーゴ校
- ・アメリカ 南ユタ州立大学
- ・台湾 国立雲林科技大學

(4) 理数教育

- ・高2理系で週2回理数探究、探究成果を発表（理科、数学、情報の教科横断授業）
- ・高校3年次に、文系全員が数学を履修、理系全員が地理/倫政を履修（文理融合の推進）
- ・数学、科学、情報など各種オリンピックの成果向上
- ・千葉大学アセントプログラムなど、大学が実施する理系プログラムへの参加促進
- ・理系教育のための人材の確保と教員の研修、他校や研究機関との協働活動推進
- ・高大連携推進 千葉大学、東邦大学

(5) 秀英アカデミア

- ・学問への興味を喚起し、探究や各種大会出場が学びをさらに高める相乗効果をねらう。
探究講座：各学期末に様々な分野から講師招聘、年間15～18回実施。中高参加自由
秀英課題探究プロジェクト：生徒自らが学びの面白さに向かう姿勢育成。先輩からの刺激
- ・数学・地理・情報・科学オリンピック、プログラミングコンテスト、模擬国連大会やディベート甲子園、ストックリーグなど、全国大会出場の実力を養成し、挑戦の意欲を伸ばす。

(6) 文化・平和学習

- 〔文化講演会〕 5/26（木）実施 中島さち子氏（数学者、実業家、ジャズピアニスト）講演
- 〔伝統文化〕 歌舞伎鑑賞（中3）
能楽鑑賞（高1）
中学3年 京都・奈良修学旅行（2泊3日）
- 〔平和学習〕 高校1年 広島平和学習（1泊2日）
高校2年 沖縄修学旅行（3泊4日）
- その他、芸術鑑賞教室、福祉講演会等実施。

3 生徒募集・広報活動

千葉県はもとより、都内から受験生を呼び込むことができるよう、精力的な広報活動を実施する。

校内実施の見学会・学校説明会・入試説明会をより参加しやすい時間にするとともに、広報活動を拡げ、都内からの参加者増加につなげる。塾主催の模試会場の提供は引き続き行う。

校外で主催される説明会には、より頻繁に参加し本校を説明する態勢を作る。また、本校を受験生から見た時の「見え方」を肌で感じることは重要である。そのため、塾への挨拶訪問や入試情報交換会などには多くの職員が参加するようにしていく。

4 取り組みの精選

図書館運営を株式会社丸善雄松堂に業務委託とし、民間が持つ図書館運営のノウハウの活用と人件費削減を進める。業務委託内容としては、図書館全般の業務と 20 時までの自習監督が含まれる。

5 施設・環境の整備

安心・安全で、教育効果を生む施設を目差し、経年劣化の修復を施しつつ、施設の整備を行う。

〔令和 8 年度実施予定の主な整備〕

中学棟、新館、第 1 体育館、小講堂の LED 化

中央棟の空調設備更新

中学棟と高校棟の廊下・階段の壁手摺の内装

令和 8 年度生徒数 (予定 3/10 現在)

	学 年	学則定員	在籍予定数	クラス数	
中学校	1 年	(160 名)	168 名	5	
	2 年	(160 名)	174 名	5	
	3 年	(160 名)	171 名	5	
	総 数			513 名	15
高等学校	1 年	(240 名)	252 名	8	内進 5・高入 3
	2 年	(240 名)	265 名	8	文系 3・理系 5
	3 年	(240 名)	287 名	8	文系 3・理系 5
	総 数			804 名	24
総 数			1,317 名	39	

V.昭和学院小学校中期計画(令和6年4月～令和12年3月)

【中期計画策定の主旨】

子どもたちが生きていく世の中は、不確実で予測困難な VUCA の時代と言われている。そこでは、単なる知識や技能は何の役にも立たない。AI 等が発達した世の中では、自ら考え、判断し、その結果を自分らしく表現する学び方や学ぶ力を子どもに育むことが大事になる。しかし、未来を生き抜くために必要となる資質・能力の育成は、決して簡単なことではない。学校教育の中で時間をかけて計画的、継続的に指導していくことが求められる。

また、人格形成の基礎となる初等教育においては、学び方や学ぶ力の育成とともに豊かな感性とやさしい心を育むことも大事にしなければならない。昭和学院小学校では、これまでも教育課程の編成等を通して重視してきたことではあるが、改めて中期計画を策定することによって、子どもたちに未来を豊かに生きていく上で必要となる力を育む教育活動を充実させていく。

【中期計画策定の目的】

- (1) 建学の精神「明敏謙譲」の態度を育成する。
- (2) グローバル社会を生きていくための基礎となる体験を保証し、異文化を尊重する態度や英語力を育成する。
- (3) 自ら考え、判断し、表現する学びを通して、様々な分野に活用できる、生きて働く学力を身に付けさせる。
- (4) 初等教育として相応しい教育活動の一層の改善充実を図っていく中で、本校の教育課題を明確にし、適切に対応していく。

【中期計画策定の基本方針】

中期計画の目的を達成するため、以下の6つの項目を基本方針として取り組んでいく。

- 子どもの豊かで深い学び
- ICT化の推進
- グローバル化の推進
- 学習環境の構築
- 教師の指導力向上
- 広報活動の強化

【目標概要】

学校の使命は、子どもが実社会を生きていく力を育てること、世の中で役に立つ人づくりをすること、子どもが自分らしく自らの人生を切り拓いていけるようにしていくことにある。子どもたちが、心身ともに健康で豊かな人間性をもつ人として成長するように支援するとともに、生涯に渡って学び続けることのできる資質を身につけることを目指し、

「学び続ける力とやさしい心」をもった子どもの育成を目標に教育活動を進める。

◎昭和学院 建学の精神『明敏謙譲』

明朗にして健康で自主性に富み、謙虚で個性豊かな人間を育てる

◎昭和学院小学校教育目標

『学び続ける力とやさしい心』をもった子を育む

- 児童像 ① 楽しく学ぶ子ども
② 心豊かでやさしい子ども
③ 明朗で健康な子ども

学校像 笑顔があふれる学校
伝統を大切にしながらも進化する学校

【事業概要】

(1) 子どもの豊かで深い学びの構築

- ・ 1クラス40名(2クラス)→1クラス35名(3クラス)を2021年度より6年計画で実現させ、よりきめ細かな指導を行う。

(2026年度完成)

令和8年度予定児童数

学年	組	定員	実児童数
1年	1組	35	37
	2組	35	37
	3組	35	37
2年	1組	35	33
	2組	35	33
	3組	35	33
3年	1組	35	35
	2組	35	36
	3組	35	35
4年	1組	35	35
	2組	35	37
	3組	35	36
5年	1組	35	37
	2組	35	36
	3組	35	36
6年	1組	35	35
	2組	35	35
	3組	35	33
合計		630	636

- ・ 個別最適な学びと協働的な学びを適切に組み合わせた授業を実現する。
- ・ 豊かな心と体を育てるために人権教育、キャリア教育、福祉教育、食育、安全教育等をさらに充実させる。

(2) ICT 化の推進

- ・ ICT を有効に活用した授業改善 (児童一人につき一台のタブレット端末) を推し進めるとともに、その効果を検証する。
- ・ グローバル・情報化社会 に生きる子どもたちに必要なスキルを取得させる。
例) ロイロノートを活用した課題解決の工夫、欠席児童にオンラインで授業を配信
- ・ プログラミング教育をこれまで以上に充実させる。

(3) グローバル化の推進

- ・ 英語の授業、イングリッシュキャンプをさらに充実させる。
- ・ オーストラリア語学研修 (ホームステイし、オーストラリアの小学校との交流<希望者 24 名>) を夏休みに実施する。
※英語 (外国語) で多様な人々とコミュニケーションを図ることができる能力を重視
- ・ 夏季休業中に校内イングリッシュキャンプの実施 (希望者)
- ・ SDGs 教育に取り組み、世界に目を向ける。

(4) 学習環境の整備

- ・ 本館全エアコン入れ替え
- ・ 照明の LED 化

(5) 学校図書館教育の充実

- ・ 各教科との連携を図る。
- ・ STEAM 教育の充実に向けて関連図書を整備を推進する。

(6) 教師の指導力向上

- ・ 授業研修のさらなる充実を図り、授業力の向上を目指す。
算数、国語、専科部会のより一層の充実
教育先進校の視察
講師を招いての授業研究会の実施
- ・ AI を活用した授業改善のための研修会を行い情報共有していく

(6) 広報活動の強化

- ・ 私立小学校進学者の定員確保をめぐり私立小学校間の競争が激化している。それゆえ広報活動の強化が急務である
- ・ ホームページ、SNS の充実。日々の教育活動をまめに更新し常に新しい情報を提供
学校行事等オンラインによるリアルタイムでの配信
- ・ 学校説明会の充実
オンライン説明会 (3 月、4 月)
年間全 5 回のオープンスクールの実施 (5 月、6 月 2 回、9 月、1 月)
体験教室 (6 月)、ナイト説明会 (7 月) の継続実施
幼児教室・幼稚園対象の説明会を 2 回実施 (5 月、1 月)
幼児教室の模擬試験会場として校舎を使用してもらい、試験実施中に学校説明を積極的に行う。

【人事計画】

(1) 現況

2025年度は、校長1名、教頭2名、顧問1名、教諭20名、養護教諭1名、常勤講師12名、非常勤講師6名（養護教諭1名）で教育活動に臨んだ。また、常勤職員6名、非常勤職員8名で事務、教育相談、学童等の職務に当たった。2026年度は、校長1名、教頭2名、顧問1名、教諭22名、養護教諭1名、常勤講師10名、非常勤講師8名（養護教諭1名）で教育活動を充実させる。また、常勤職員7名、非常勤職員10名で事務、教育相談、学童等の職務に当たる。

(2) 採用計画

① 令和7年度～令和9年度

専科(理科、図工、体育、音楽、英語)の授業数が増えていくことから常勤、または、非常勤で補う必要が出てくる。

② 令和8年～令和12年

昭和学院秀英小学校開校に向けて、専科教員（音楽、図工、英語、家庭科、体育）や担任教員及び学童職員を補充していく必要がある。常勤講師の勤務実態を考慮して採用を検討しなければならない。

(採用教職員予定)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
専任教諭(常勤講師含)	2(担任)	1(担任)	1(担任)	1(担任)		
非常勤講師	1(図工)	1(体育)	2(音楽、英語)			
職員(非常勤含む)						

○教職員の構成

(令和8年度)

	校長	教頭	担任副担	体 図 英	専 科 理 音	養 護	図 書 館	教 育 相 談	事 務	学 童	ALT
専任・常勤	1	2	21	13	1	2		1	6	2 (1)	
非常勤			3	2	1		1	2	7		

()は派遣

(令和9年)

	校長	教頭	担任(副担任)	本図英専科理音	養護	図書館	教育相談	事務	学童	ALT
専任・常勤	1	2	21	12	1	2		1	6	2 (1)
非常勤			3	3	1		1	2	7	

()は派遣

(令和10年)

	校長	教頭	担任(副担任)	本図英専科理音	養護	図書館	教育相談	事務	学童	ALT
専任・常勤	1	2	22	13	1			1	6	2 (1)
非常勤			2	3	1	2	1	2	7	

()は派遣

(令和11年)

	校長	教頭	担任(副担任)	本図英専科理音	養護	図書館	教育相談	事務	学童	ALT
専任・常勤	1	2	23	13	1			1	6	2 (1)
非常勤			2	5	1	2	1	2	7	

()は派遣

(令和12年)

	校長	教頭	担任(副担任)	本図英専科理音	養護	図書館	教育相談	事務	学童	ALT
専任・常勤	1	2	24	13	1			1	6	2 (1)
非常勤			2	5	1	2	1	2	7	

()は派遣

昭和学院小学校 令和8年度事業計画

【基本方針】 スクールミッション

○グラディエーションポリシー：本校の児童に学びの中で修得してほしい力・態度

小学校学習指導要領を踏まえて、次の資質・能力を中心とした、生涯にわたって学び続ける力の基礎を身に付けさせます。

- ・確かな学力と創造性、豊かな感性
- ・人権尊重の精神と学びを支える力（人間関係、コミュニケーション能力）
- ・主体的・積極的に活動に取り組み、自ら課題を見出し解決する力（探究力）
- ・相手を思いやるやさしい心、公共心

○カリキュラムポリシー：教育課程の編成・実施方針

小学校学習指導要領に則り、人間として調和のとれた子どもの育成を目指し、適切な教育課程を編成するとともに、地域の先進的な教育モデルとなるべく先行的な実践にも積極的に取り組みます。その際、次のことがらを教育目標として、教育環境を整え、教育課程を編成します。

- ・初等教育段階での「基礎・基本」の確実な理解とそれを活用する力の育成
- ・理科、数学教育を中心としたSTEAM教育に言語教育（Language）を加えたSTLEAM教育の推進
- ・子どもの学習状況に応じた学力の伸長（ICTなどを活用した個別最適の学びの実現）
- ・主体性と協調性を育み、国際社会で活躍できる資質・能力の養成
- ・相手に伝えたい自分の考えをしっかりと表現できる英語力の育成

○アドミッションポリシー：入学者受け入れの方針

本校は、子どもの個性を尊重し、それぞれのよさを伸長するとともに仲間と協力して自分らしさを磨いていくことを大事にしています。そのため、次のような子どもを入学者として受け入れます。

- ・誰とでも仲良く協力しようとする協調性のある子ども
- ・最後まで諦めずに粘り強く取り組もうとする子ども
- ・新たなことに積極的に挑戦しようとする子ども
- ・相手の話を聞き、意欲的に学ぼうとする姿勢のある子ども
- ・自分の考えを自分なりに表現しようとする子ども

【実施計画】

1. 生涯にわたって探究し続けることのできる人材の育成

・教育目標を「学び続ける力とやさしい心を育む」とし、生涯探究、生涯読書、生涯対話のできる素地の育成

・年間のカリキュラムの中に、「探究の時間」を位置づける。

前期（ 6月～9月）5， 6年生の「フリー探究」

後期（11月～2月）4， 5年生の「テーマ探究」

- ・個別最適の学びと協働的な学びの適切な組み合わせの探究
- ・豊かな心と体を育てるために人権教育、キャリア教育、福祉教育、食育、安全教育等のさらなる充実

2. 読書環境の充実

- ・低学年100冊読書の継続
- ・中学年はブックリストを更新し、年間を通しての読書環境を整備
- ・読書通帳などの環境整備（年間を通した読書活動の一層の充実）
- ・司書教諭を中心とした情報活用能力の系統化

3. グローバル化の推進

- ・1～6年生の英語の授業及び、6年生のイングリッシュキャンプのさらなる充実
- ・オーストラリアホームステイプログラムによる国際交流（夏休み）
※英語(外国語)で多様な人々とコミュニケーションを図ることができる能力を重視
- ・従来の GrapeSEED は4年生まで。5， 6年生は Oxford のテキストを使用し、読み書き力の強化を図る

4. 学習環境の整備

- ・図書館を情報センターとした STLEAM 教育の推進と各教科との連携
- ・防犯カメラの増設など、安心・安全な学校づくり

5. 教師の指導力向上

- ・校内研修のさらなる充実（外部講師による指導）
- ・授業研究（授業公開、授業後の研究協議会）の実施
- ・教育先進校の視察（STEAM 教育、英語教育を中心としたカリキュラム研究等）

6. 児童募集・広報活動の強化

- ・少子化の中での定員の確保
- ・ホームページの改訂・充実と、恒常的な情報の更新
- ・SNS（インスタグラム）の活用と充実
- ・学校案内の刷新（本冊と季節に応じたインフォパンフレットの分冊化）
- ・学校説明会の充実（オンライン説明会・ナイト説明会・体験教室等の開催）
- ・幼児教室等が主催する学校説明会等における広報活動の推進
- ・千葉県私立小学校フェアへの参加
- ・昭和学院幼稚園との計画的かつ持続性のある幼小連携の強化
- ・昭和学院中学校、昭和学院秀英中学校への内部進学制度の強化

7. その他

- ・アフタースクールの講座増加（新たにサッカー教室）全16講座

昭和学院秀英小学校・幼稚園の開校・開園に向けて

【基本方針】 スクールミッション

- グラディエーションポリシー：本校の児童に学びの中で修得してほしい力・態度
幼小一体の校舎を活かし、先進的な幼小一貫教育を実現させます。質の高い教育を提供する点においては昭和学院小学校と同様と考えます。
- カリキュラムポリシー：教育課程の編成・実施方針
幼小9年間のカリキュラムを通して、「知・徳・体」3拍子揃った高い学力をもつ人材を育てます。
 - ・STEAM教育を柱として、科学的思考力、論理的思考力の育成を図ります。
 - ・学校を中心に位置する図書館（ラーニング・commons）を積極的に活用し、情報活用能力、表現力を育成します。
 - ・グローバル社会をリードする人材育成のために、英語教育を充実させます。
- アドミッションポリシー：入学者受け入れの方針
知的好奇心に溢れ、何事に対してもチャレンジ精神をもってねばり強く取り組む子どもを受け入れ、幼小一貫教育によって、その資質・能力をさらに高めます。
令和10年度 募集人員
幼稚園 年少25名×2学級 年中25名×1学級 年長25名×1学級 計100名
小学校 1年生 35名×2学級 2年生 35名×1学級 3年生 35名×1学級
計140名

【実施計画】

- 1 開校に向けた準備室のメンバーを増員し、具体的な開校の準備を進めます。
 - ・人員の確保と分掌作成
 - ・幼小一貫教育のカリキュラム作成
 - ・スクールバスの運行計画、登下校のルート確認
 - ・制服やカバンなどの持ち物の検討、決定
 - ・入試などの入学システムの具体化とシュミレーション
 - ・アフタースクールや学童保育のシステムづくり
- 2 学習環境の整備
先進的な校舎を活かすために必要な学習環境づくりを進めます。
 - ・ラーニング・commonsの環境設定
 - ・専科教室の環境設定
 - ・教室や廊下などのスペースの設置計画
- 3 広報活動開始
 - ・SNS発信、ホームページ開設など
 - ・幼児教室が主催する学校説明会などでの積極的な広報活動実施

VI. 昭和学院幼稚園中期計画（R6～12）

1、主旨

昭和学院幼稚園は建学の精神のもと設立して今年 60 年を迎える。令和 5 年度まで系列校と同じ私学助成で経営してきたが、令和 6 年度より『子育て支援制度』に基づきスタートした新制度『施設型給付幼稚園』に移行した。

厳しい少子化の影響により、市川市内の幼稚園入園児は減少が続いており、本園も例外ではない。昭和学院の建学の精神の下、時代に即したグローバルな教育を展開することで、保護者から選ばれる幼稚園を目指していきたい。

2、目的

時代に即したグローバルな教育を展開

幼稚園教育の充実と小学校への接続

満3歳児入園、未就園児教室の充実

3、基本方針

昭和学院ブランドを維持しつつ、時代に即した魅力ある教育を進めていく。

小学校進学に向けての保育の向上を図る。

幼小の円滑な接続のために『架け橋プログラム』を構築、推進する。

昭和学院小学校への円滑な内部進学を進める。

4、計画概要

(1) 英語教育の充実

保護者からの英語教育への期待は益々大きくなっている。令和 8 年度より年少組の正課英語を週 2 回から毎日に時間を増やす。

英語の発表会を実施し、英語教育の向上を図る。

(2) 理数教育・プログラミング教育の充実と推進

科学教室・プログラミング教室を年長組の正課で導入し、科学的思考を育てる。

小学校と連携し、プログラミング教育を推進していく。

(3) 小学校に繋がる学びの充実

『日本語・数』に興味を持たせ、遊びを通して学ぶ

小学校の学びに繋がる自立的・協同的な活動を構築する。

(4) 幼小の連携

『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』（文部科学省幼稚園教育要領）をもとに、小学校と連携して『架け橋プログラム』を構築し幼小の交流を推進する。

(5) 教員の保育力向上

園内研を通して保育の質を向上し、科学的思考を伸ばす保育を追求する。

ICT を効果的に使う保育を研究する。

(6) 情操教育の充実

絵画・リトミック・茶道・書道等専門の講師の指導を通して豊かな情操を養う。

- (7) 体力向上を推進する
体力測定を実施し体力向上への関心を高め、毎日の取り組みを推進する。
- (8) その他
保護者への育児向上につながる情報の提供（外部講師による講演会等）
保護者間の交流懇親に努める。
未就園児英語教室を充実する。

5. 実施計画と達成目標

- (1) 令和6年度
- ・年少組の正課・課外英語の増設
 - ・理数教育、プログラミング教育の充実
 - ・科学教室の増設
 - ・小学校につながる学びの充実
- (2) 令和7年度
- ・STEAM教育の保育研修
 - ・ICT教育の推進
 - ・幼小連携の強化
 - ・未就園児クラス 1歳児『さくらんぼ組』増設
- (3) 令和8年度
- ・創立60周年 記念行事を行う
 - ・全日本幼稚園連合会関東地区大会にて研究発表
 - ・STEAM教育の保育研修
 - ・英語教育の推進 年少から毎日の英語
 - ・リトミック等の身体表現の充実
- (4) 令和9年度
- ・英語の発表会 全学年
 - ・STEAM教育の保育研修
 - ・週一日縦割り保育の実施
 - ・自園給食の検討
 - ・小学校につながる学び
- (5) 令和10年度
- ・秀英幼稚園開園・・・一部職員移動、園児編入
 - ・日本の伝統文化 導入（茶道・書道・剣道・和太鼓）
 - ・保育研修 小学校に繋がる学び
- (6) 令和11、12年度
- ・年長・年中・年少・2歳児 各1クラスを検討

6. 人事計画

(1) 現状と課題

- ・令和10年開園の秀英幼稚園の教職員の確保
- ・本園の保育者（専任）、特に担任の確保
- ・預かり保育に対応する非常勤の保育者の確保

(2) 計画

令和6年度	園長	副園長	学級担任	英語	預かり保育	新任指導	未就園児教室	事務	計
兼任							2	1	3
専任	1	1	4	2	4				9
常勤			2		1				6
非常勤					1				2
計	1	1	6	2	6	0	2	1	20

※ 副園長は継続

令和7年度	園長	副園長	学級担任	学級補助	英語	預かり保育	未就園児教室	事務	計
兼任					1		2		3
専任	1	1	4		2	3		1	12
常勤			2			3			5
非常勤				2		4			6
計	1	1	6	2	3	10	2	1	26

※ 副園長は継続

令和8年度	園長	副園長	学級担任	英語	預かり保育	新任指導	未就園児教室	事務	計
兼任				2			2		4
専任	1	1	4	2	3	(1)	1	1	13
常勤			2		2				4
非常勤					5				5
計	1	1	6	4	10	0	3	1	26

※ 秀英幼稚園準備教職員3を含む(小学校から1、新採用2)

令和9年度	園長	副園長	学級担任	英語	預かり保育	新任指導	未就園児教室	事務	計
兼任				2			2		4
専任	1	1	5	2	3	(1)	1	1	14
常勤			2		3				5
非常勤					5				5
計	1	1	7	4	11	0	3	1	28

※担任 新採用1名、預かり 新採用1名

令和10~12年度	園長	副園長	学級担任	英語	預かり保育	新任指導	未就園児教室	事務	計
兼任	1			2			2		5
専任		1	4	2	3			1	11
常勤			2		3				5
非常勤					5				5
計	1	1	6	4	9		2	1	26

※ 園長 は小学校校長が兼務 ※ 担任 新採用1名

※ 秀英幼稚園へ3名移動

7、施設設備の計画

	施設など	
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの床 改修 ・階段床 補修・塗装 ・ホールの床一部補修 ・園庭照明設置 ・エアコン洗浄 ・照明 LED化 	<ul style="list-style-type: none"> (補助金利用) (補助金利用) (補助金利用) (補助金利用) (補助金利用) (補助金利用)
令和7年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ウッドデッキの一部改修 ・エアコン交換工事 	<ul style="list-style-type: none"> (補助金利用) (補助金利用)
令和8年度	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭斜面滑り止め板の改修 ・ウォールライミング下ゴムチップ補強 ・トイレ(年少)改修 	<ul style="list-style-type: none"> (補助金利用) (補助金利用) (補助金利用)
令和9年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ウッドデッキの一部改修 ・階段下照明設置 ・砂場改修 ・畑の整備 	<ul style="list-style-type: none"> (補助金利用) (補助金利用) (補助金利用)
令和10～12年度	<ul style="list-style-type: none"> ・園舎屋根設備点検 ・ウッドデッキの一部改修 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> (補助金利用)

令和8年度 事業計画

昭和学院幼稚園

【基本方針】

スクールミッション

建学の精神の下、生涯にわたる人間形成の基礎を培うための教育を展開する。

『幼児期に育てほしい 10 の姿』を踏まえて小学校との円滑な接続を図ることに重きを置いて進めていく。

- ※ 『幼児期に育てほしい 10 の姿』・健康な心と体、自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え、社会生活との芽生え、思考力の芽生え、自然との関わり・生命尊重
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、言葉による伝え合い
豊かな感性と表現

グラデュエーション・ポリシー

育成を目指す子ども像

『笑顔いっぱいの幼稚園』

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| ・健康で明るい子 | ・みんなと仲良く遊ぶ子 | ・優しく思いやりのある子 |
| ・自分で進んでやる子 | ・創意工夫のできる子 | |

カリキュラム・ポリシー

実施方針

(1) 幼稚園教育において育みたい資質・能力

- ・知識及び技能の基礎
- ・思考力・判断力・表現力などの基礎
- ・学びに向かう力、豊かな人間性

(2) 小学校教育との円滑な接続

○「健康で明るい子」を育てる

- ・多様な経験を通して豊かな感性を伸ばす
- ・遊び、運動、食育を通して体力づくり

○「優しく思いやりのある子」を育てる

- ・人への愛情や信頼感を育てる
- ・身近な自然や物に関心を持ち、触れて感じて理解することで豊かな人間性を育む

○「自分で進んでやる子 創意工夫のできる子」を育てる

- ・自然など事象などへの興味や関心を育てる
- ・子どもの「できた！」という達成感を持たせる

○アプローチカリキュラム

- ・協同的な遊びや体験の充実
- ・学びの芽生えを大切に活動の充実
- ・スタートカリキュラムへつなげる

